

令和3年6月

令和3年 4月 ~ 6月期 実績  
令和3年 7月 ~ 9月期 見通し

# 中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

# 目 次

主要景況項目の動き	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移 * 平成15年1月以降	23
[集計資料]	

## D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

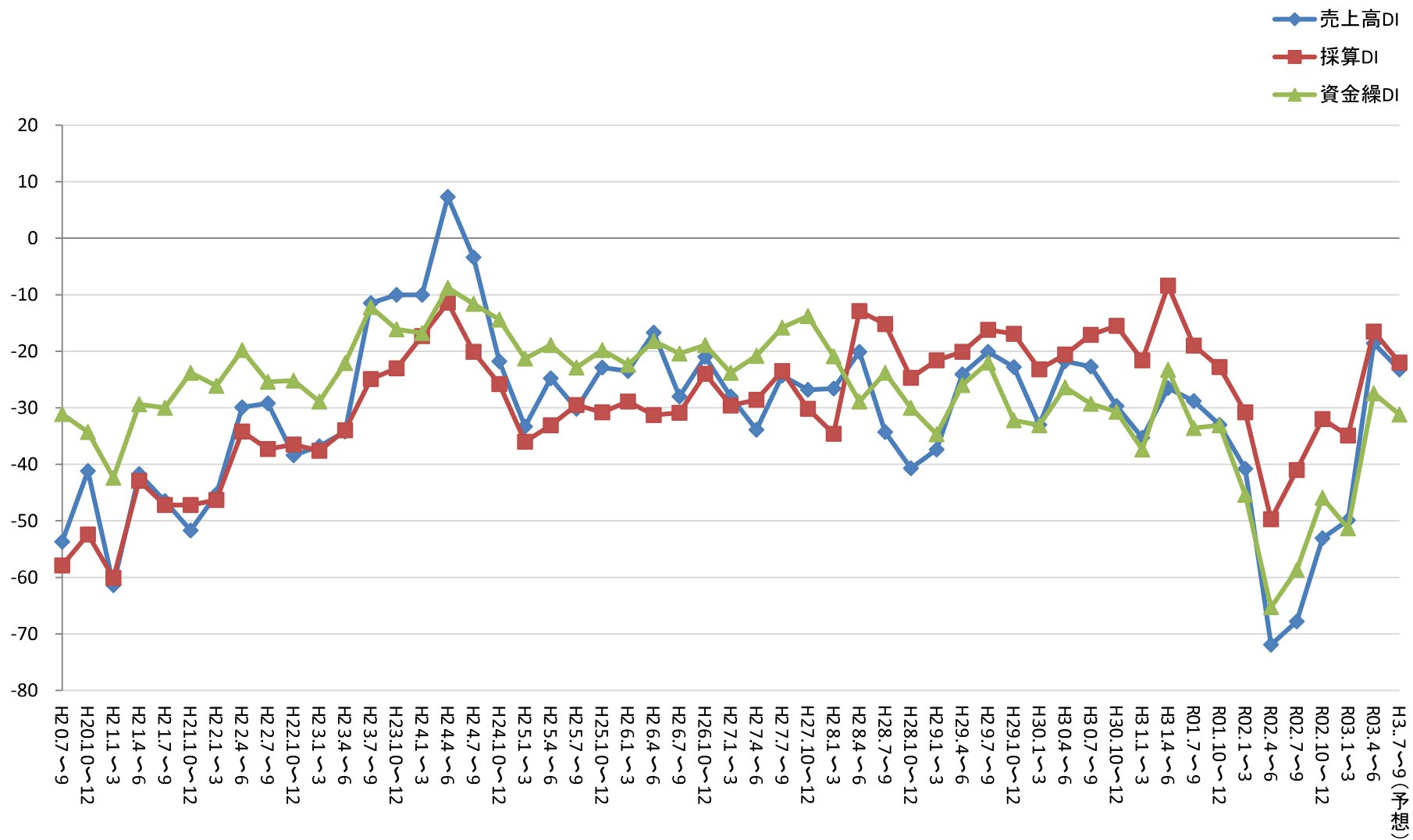
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。





































たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、D・Iは $50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。






[ 岩手県 産業全体 ]

### 主要景況項目の動き ー前年同期比ー



# 業 況 天 気 図

業 種 \ 期 間	令和元年		令和2年				令和3年		(見通し)
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
製 造 業	 曇	 曇	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 薄曇	 晴
建 設 業	 雨	 雨	 薄曇	 雨	 雨	 雨	 雨	 曇	 曇
小 売 業	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨
サ ー ビ ス 業	 曇	 曇	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 曇	 曇

売上高DI	100.0 ~30.1	30.0 ~10.1	10.0 ~△ 10.0	△ 10.1 ~△ 30.0	△ 30.1 ~△ 100.0
表 示	 快晴	 晴	 薄曇	 曇	 雨

# 全産業の推移

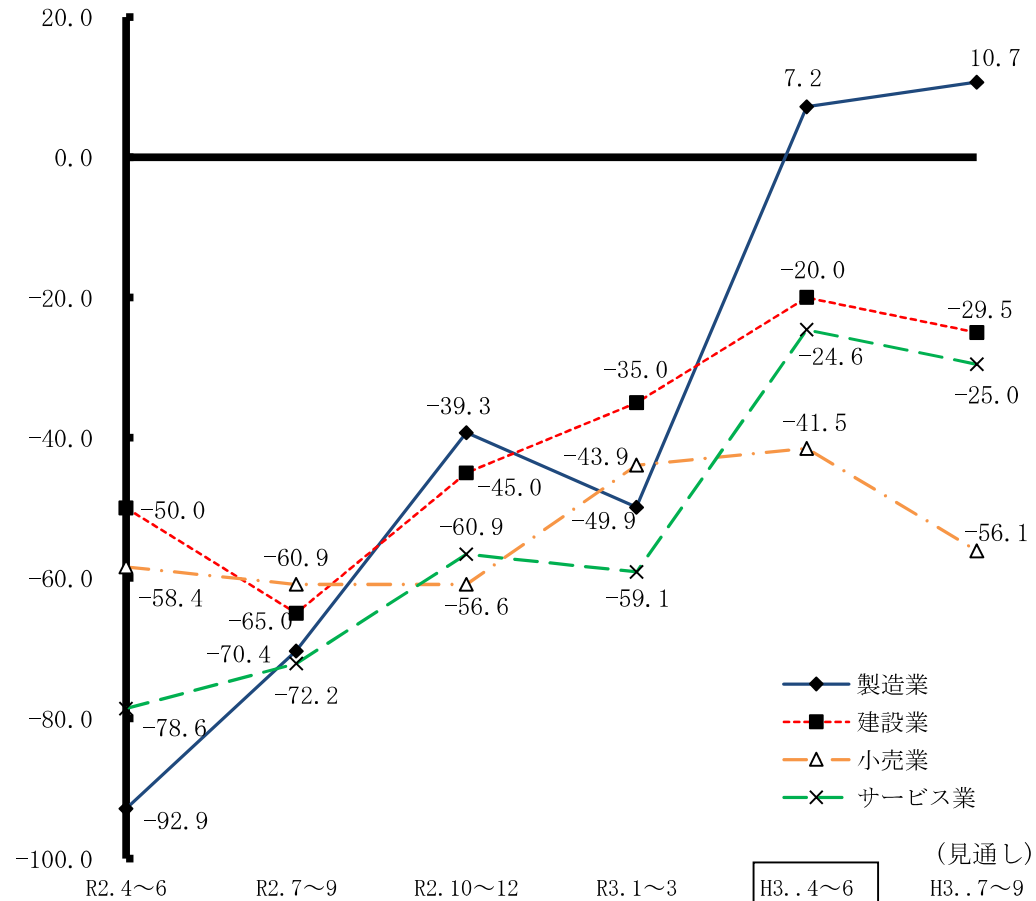
## 売上高

**全業種において売上高D・Iが上昇  
製造業はプラス域まで回復**

今期は、製造業が57.1ポイントの大幅な上昇となり、平成24年1～3月期以来9年ぶりにプラス域に達し、7.2まで回復しました。また、建設業は3期連続の上昇となり△20.0まで改善しました。サービス業も34.5ポイント上昇して△24.6、小売業も小幅ながら2.4ポイント上昇して△41.5となっています。

来期は、製造業において売上高D・Iは今期に引き続き上昇が予想されますが、建設業、サービス業、小売業においては低下に転じる見通しとなっております。

※ 建設業の売上高は完成工事高



# 全産業の推移

## 採算

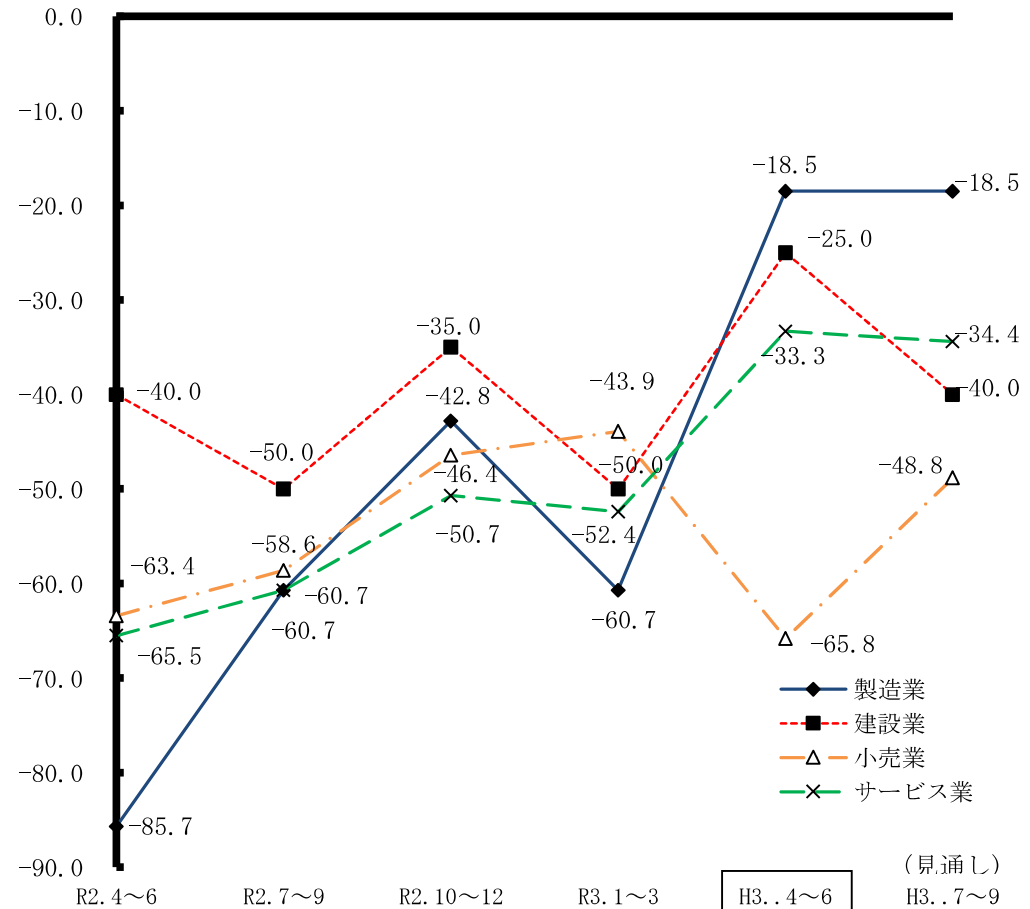
**製造業、建設業、サービス業において  
採算D・Iが大幅に改善、厳しさを増す小売業**

今期の採算D・Iは、製造業、建設業、サービス業が大幅に改善し、製造業は42.2ポイント上昇の△18.5、建設業が25.0ポイント上昇の△25.0、サービス業が19.1ポイント上昇の△33.3まで改善しています。

3期連続して上昇していた小売業は今期は悪化に転じ、21.9ポイント低下して△65.8となり厳しい状況となっています。

来期は、今期大幅に悪化した小売業において改善が見込まれるものの、製造業は横ばい、建設業、サービス業は悪化に転じることが予想されています。

※ 採算は各業種とも経常利益



# 全産業の推移

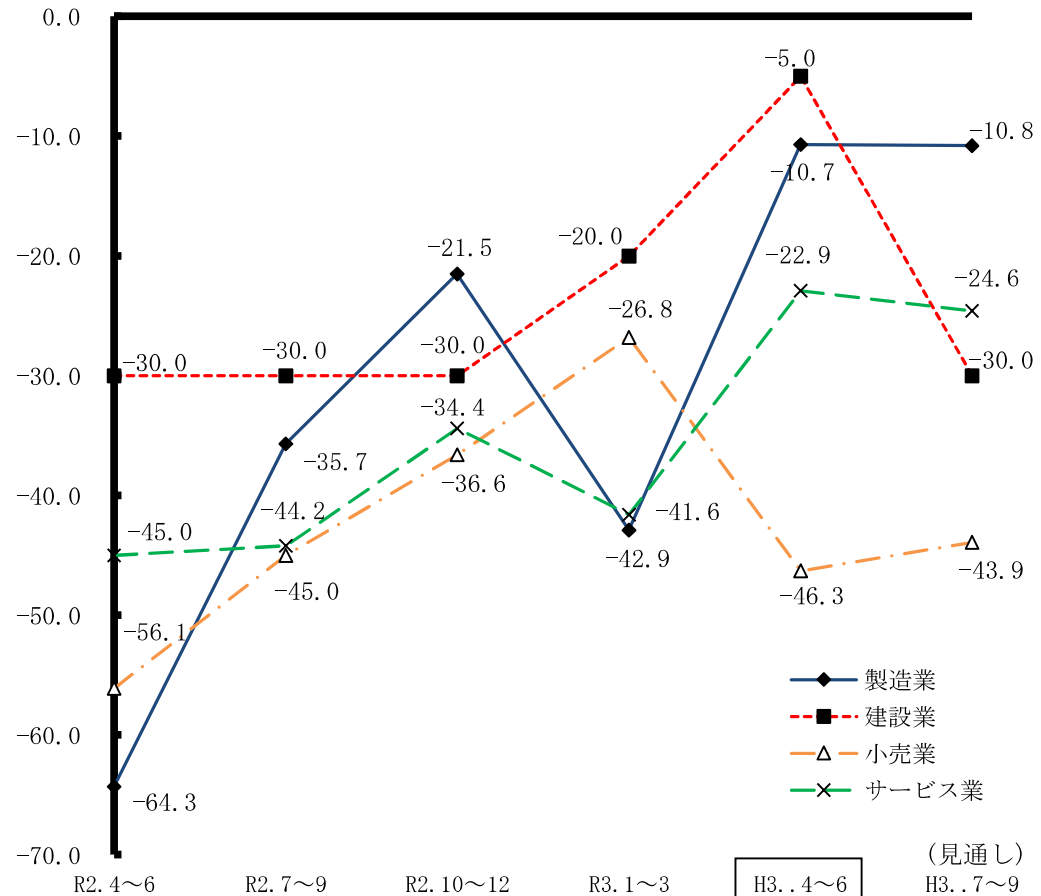
## 資金繰り

**建設業、製造業、サービスで資金繰りが改善  
小売業は悪化に転じる**

今期は、建設業が2期連続の上昇となり、15.0ポイント増加の△5.0まで改善しました。また、製造業も32.2ポイントの大幅な上昇となり△10.7、サービス業も18.7ポイント上昇して△22.9まで改善しています。

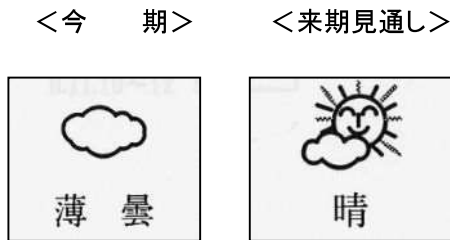
3期連続して上昇していた小売業は悪化に転じ、19.5ポイント低下して△46.3まで悪化しています。

来期は、小売業において小幅な改善が見込まれますが、今期改善基調にあった建設業、製造業、サービス業においては再び悪化に転じる見通しです。



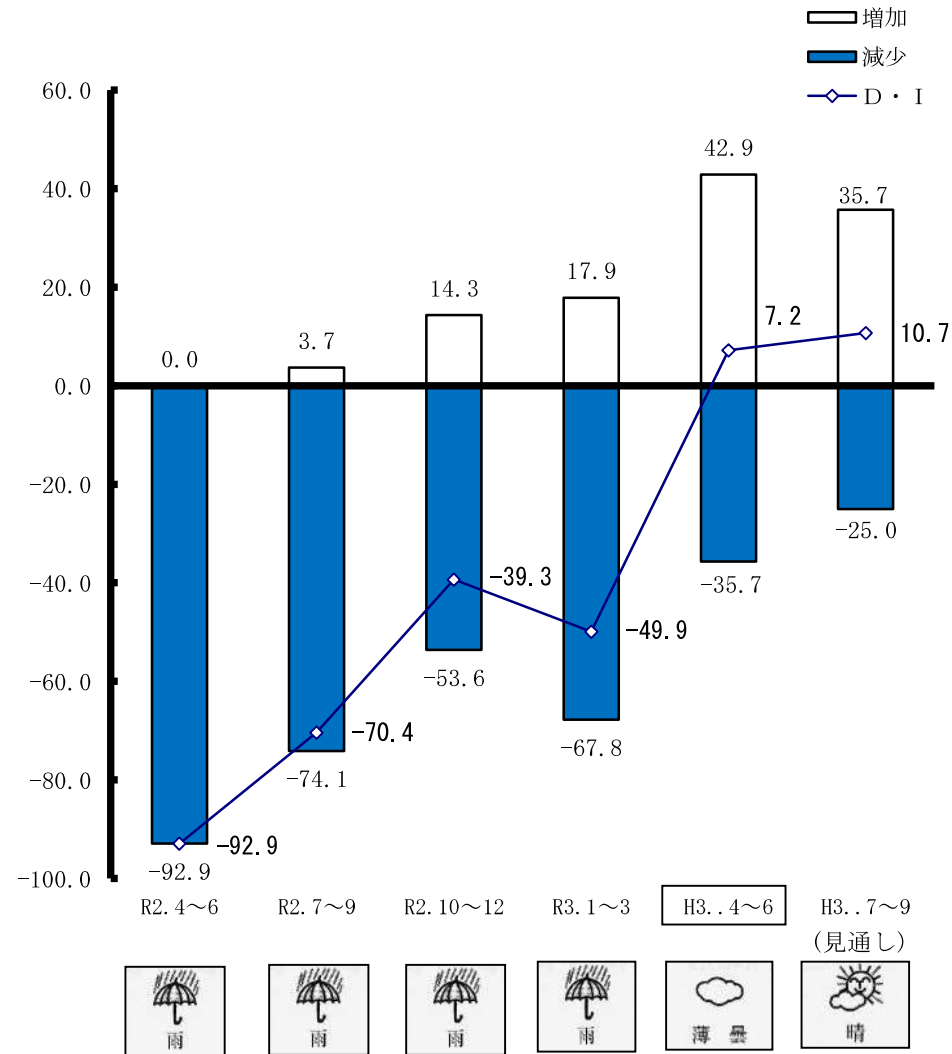
# 製造業の推移

## 売上高



今期は、売上高増加企業の割合が25.0ポイント増加し、売上高減少企業の割合が32.1ポイント減少となったことから、売上高D・Iは57.1ポイントの大幅な上昇となってプラス域に達し、7.2まで改善しました。景況天気図も雨から薄曇りへと変化しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が減少するものの、売上高の減少を予想する企業割合も減少することから、売上高D・Iは今期に引き続き上昇する見通しです。





## 採算

<今 期>

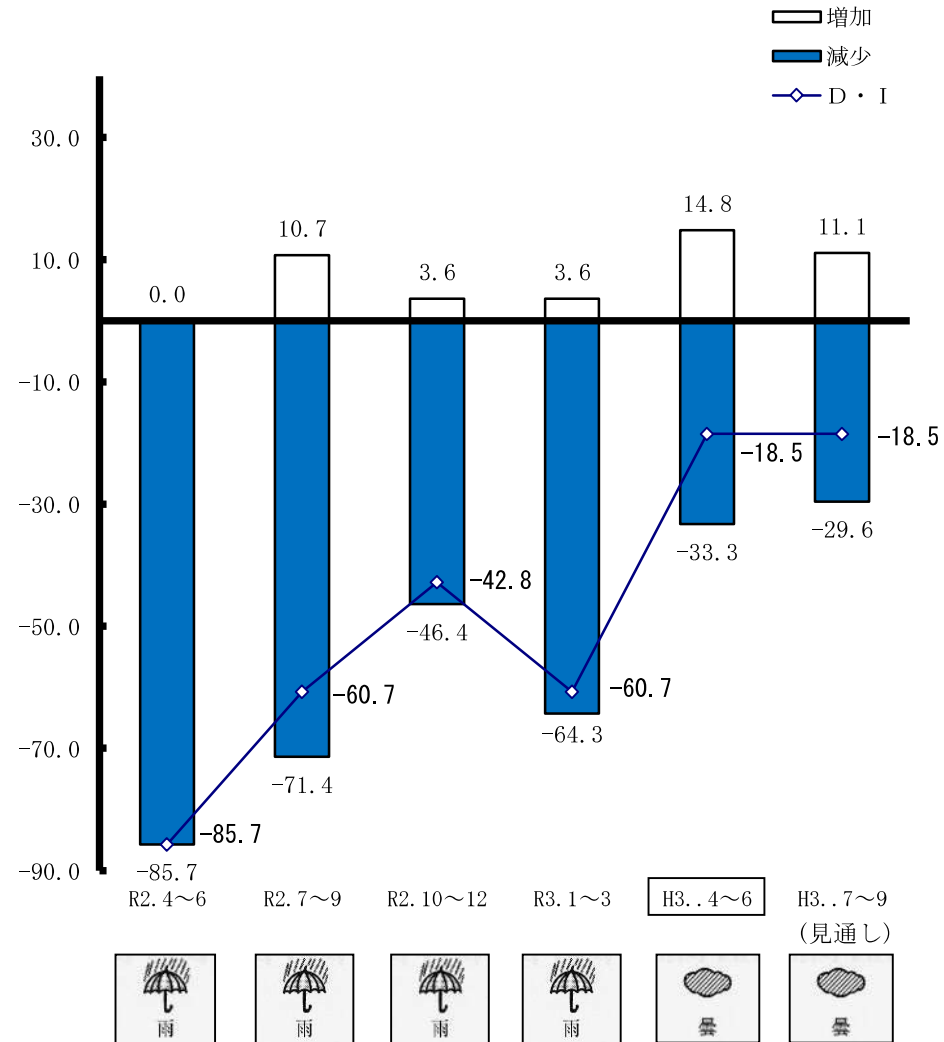


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が11.2ポイント上昇し、採算が悪化した企業の割合も31.0ポイントの減少となり、採算D・Iは42.2ポイントの大幅な上昇となり△18.5まで改善しました。景況天気図も雨から曇へと変化しています。

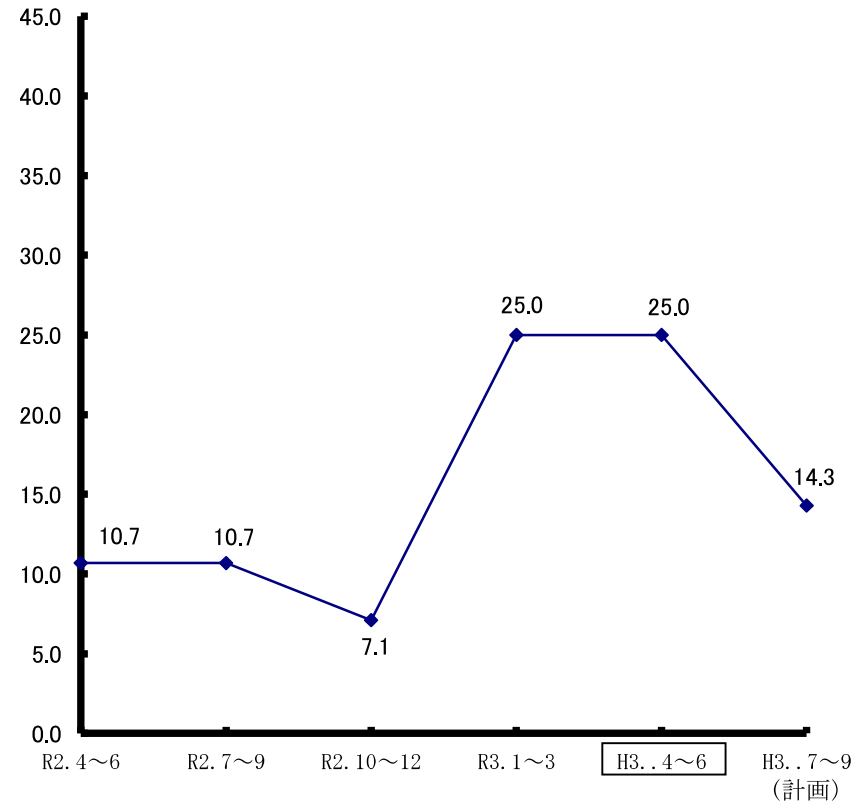
来期は、採算の改善を予想する企業が減少するものの、採算の悪化を予想する企業割合も減少することから、採算D・Iは横ばいとなることが予想されています。



## 設備投資

今期設備投資を実施した企業数の割合は、前期と同じ水準となり、25.0の高い割合を維持しています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は減少に転じることが見込まれ、14.3にとどまる見通しです。



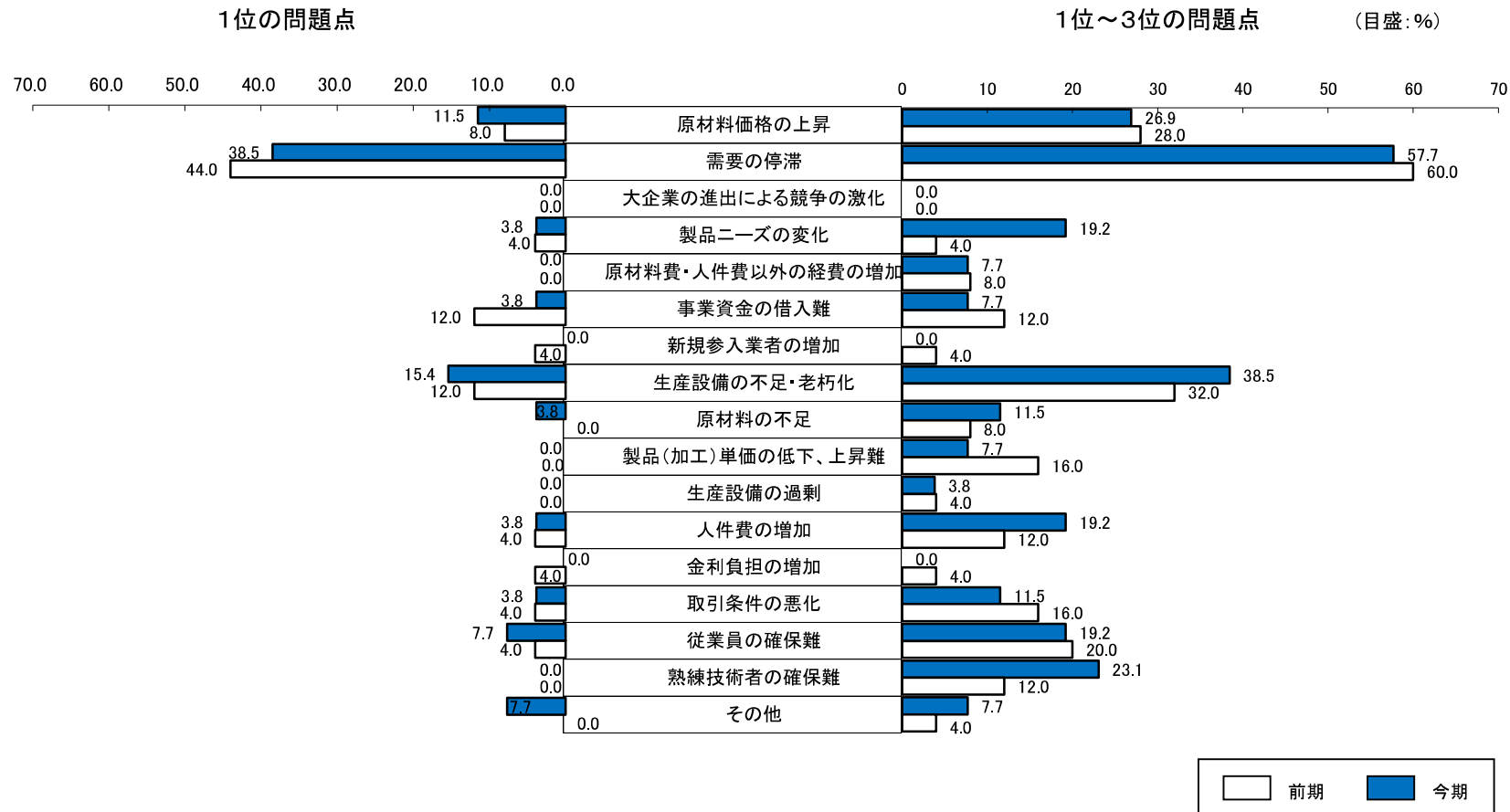
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

# 製造業の推移

## 経営上の問題点

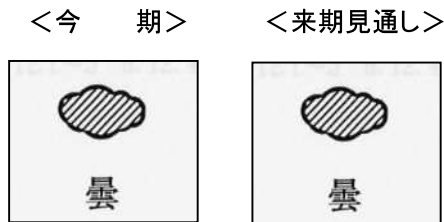
岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



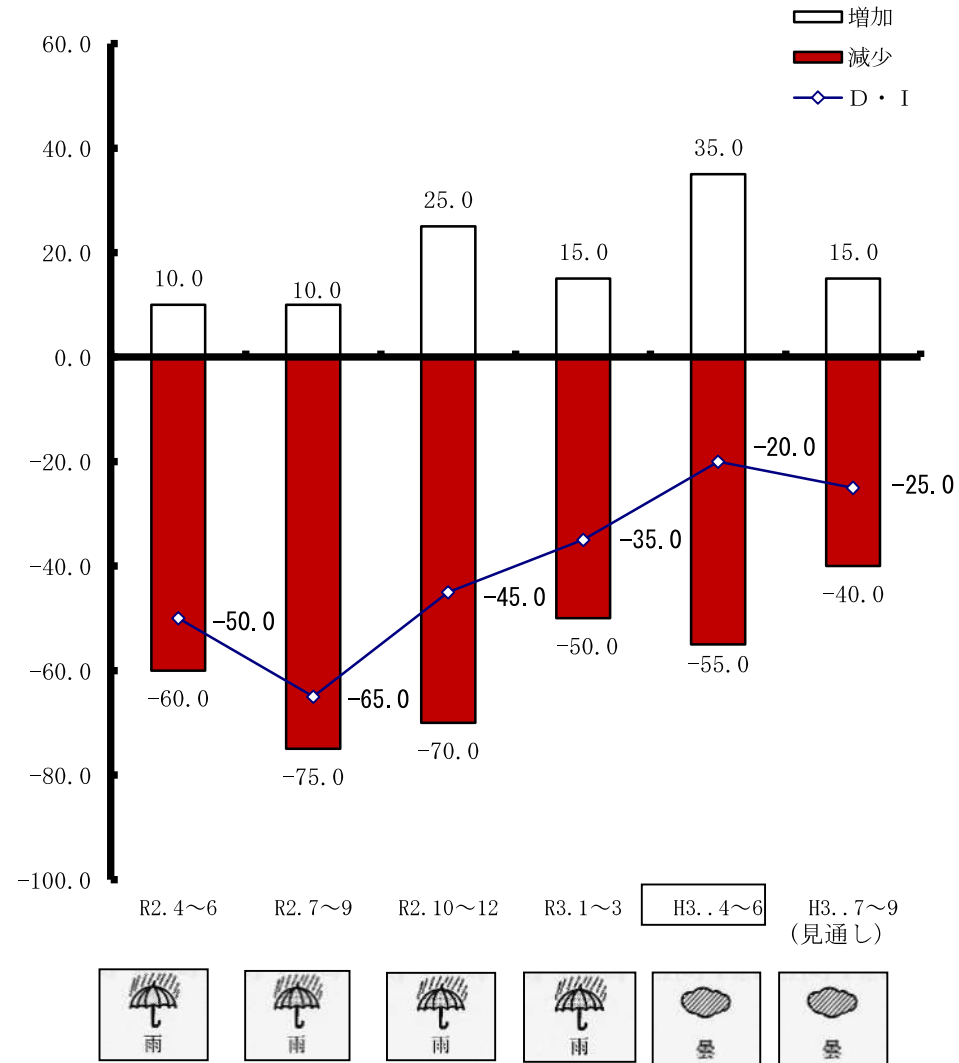
# 建設業の推移

## 売上高



今期は、売上高が減少した企業割合が5.0ポイント増加したものの、売上高が増加した企業割合が20.0ポイント増加したことにより、売上高D・Iは3期連続の上昇となり、△20.0まで改善しました。

来期は、売上高の減少を予想する企業の割合は減少するものの、売上高の増加を予想する企業の割合が減少するため、売上高D・Iは低下に転じ、△25.0まで悪化することが予想されます。



※ 建設業の売上高は完成工事高

## 採算

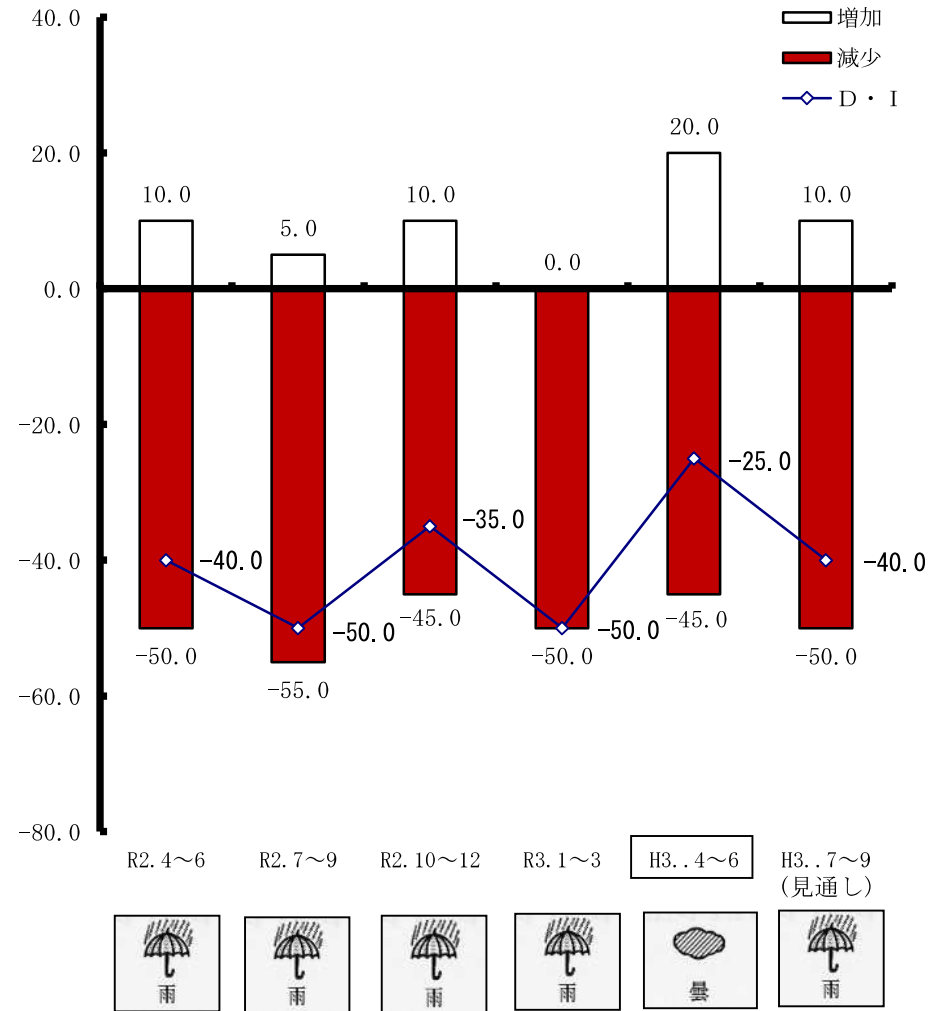
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算の好転を挙げた企業の割合が20.0ポイント増加して20.0まで上昇し、また、採算が悪化した企業の割合が5.0ポイント減少したため、採算D・Iは25.0ポイントの上昇となり、△25.0まで改善しました。

来期は、採算の好転を予想する企業が減少し、採算の悪化を予想する企業割合の増加が見込まれることから、採算D・Iは再び悪化に転じることが予想されています。

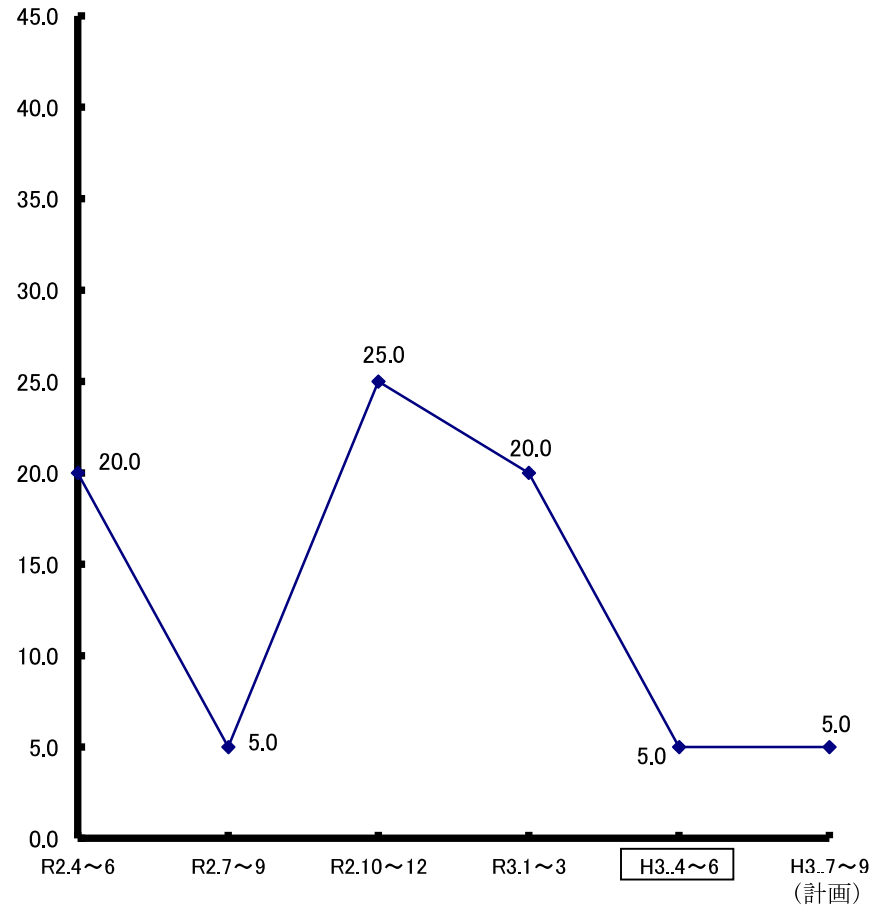


## 設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期は20.0の水準にありましたが、今期は大幅に減少し5.0にとどまっています。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は今期と同じレベルとなり5.0となる見通しです。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。



## 経営上の問題点

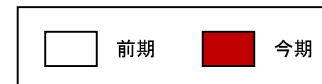
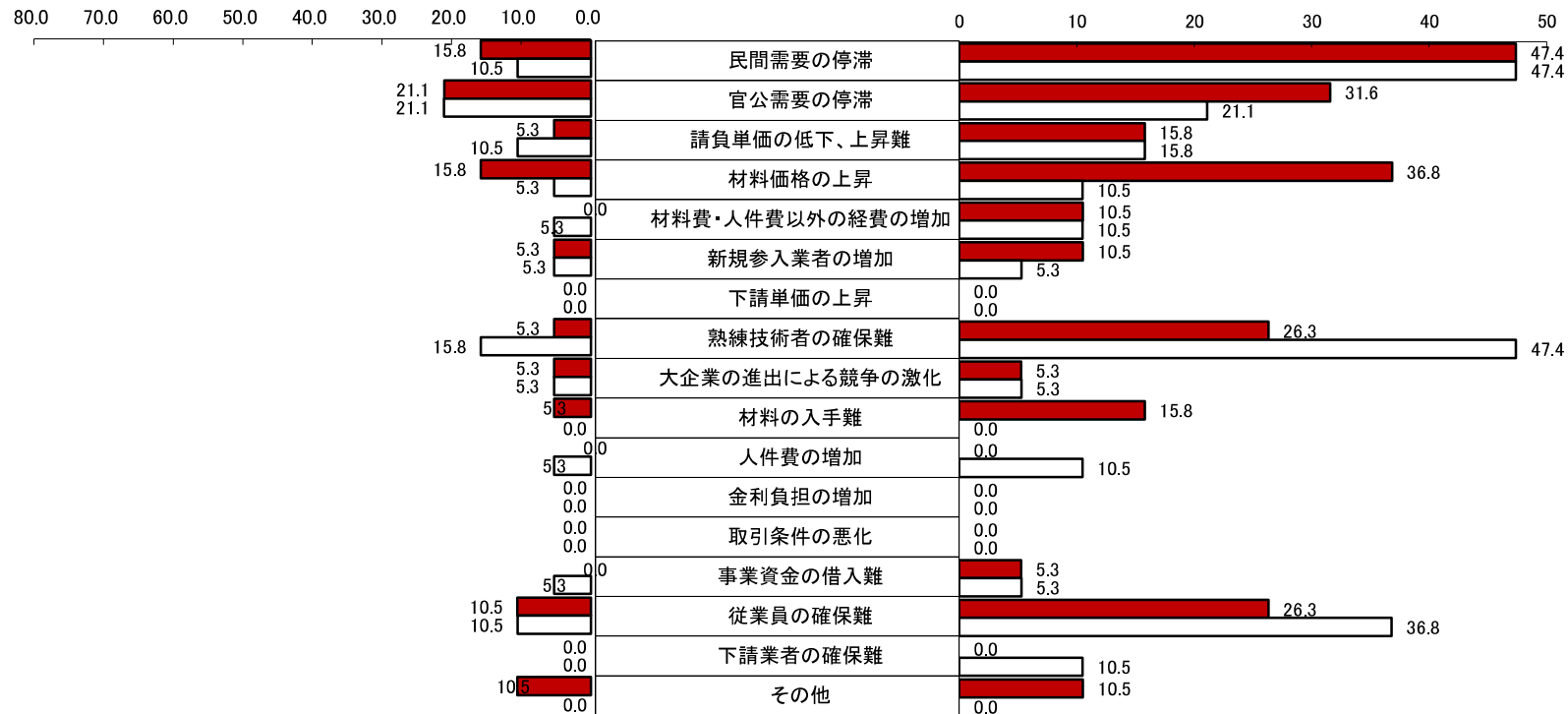
岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

1位の問題点

1位～3位の問題点

(目盛:%)



# 小 売 業 の 推 移

## 売 上 高

<今 期>

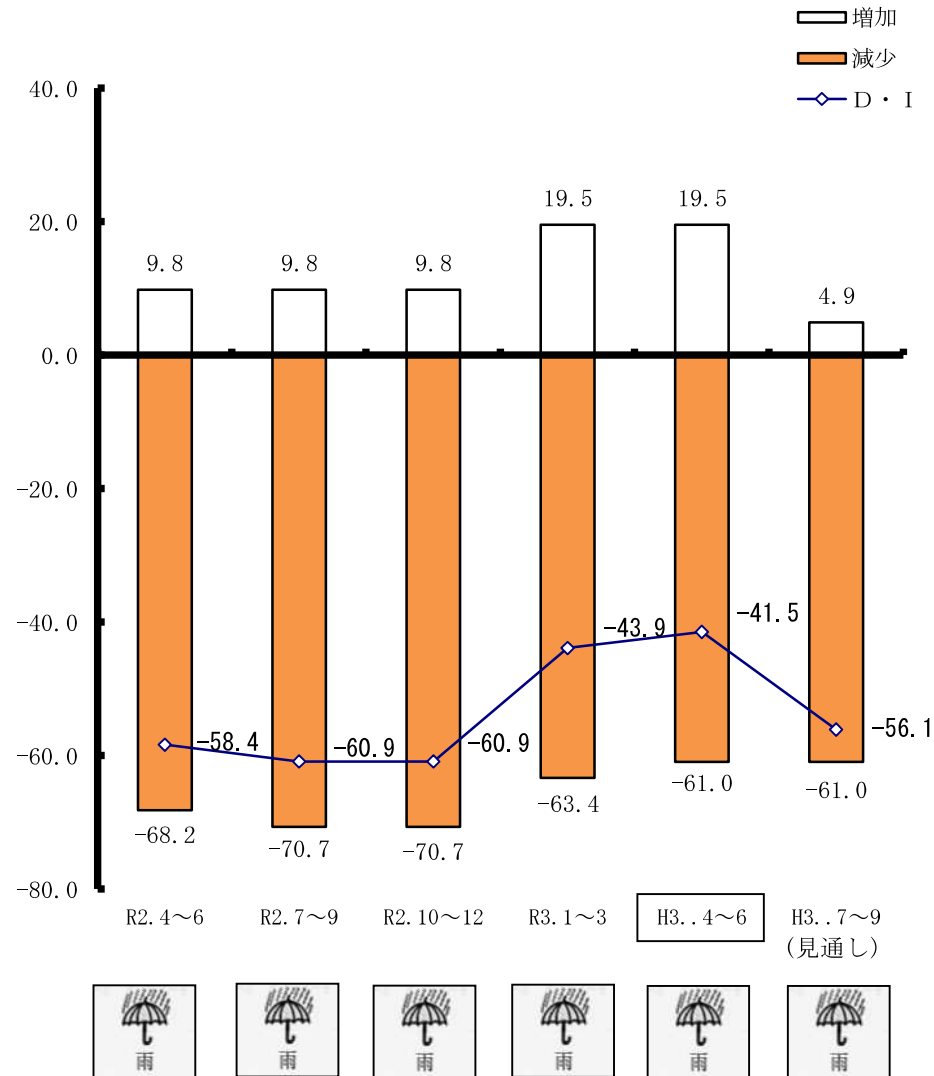


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が前期と同じ19.5にとどまったものの、売上高減少企業の割合が減少したため、売上高D・Iは2.4ポイント増加して△41.5まで小幅ながら改善しました。

来期は、売上高の減少を予想する企業割合は今期と同じレベルにとどまる一方、売上高増加を予想する企業割合が減少するため、売上高D・Iは大きく悪化する見通しです。





# 小 売 業 の 推 移

## 採 算

<今 期>

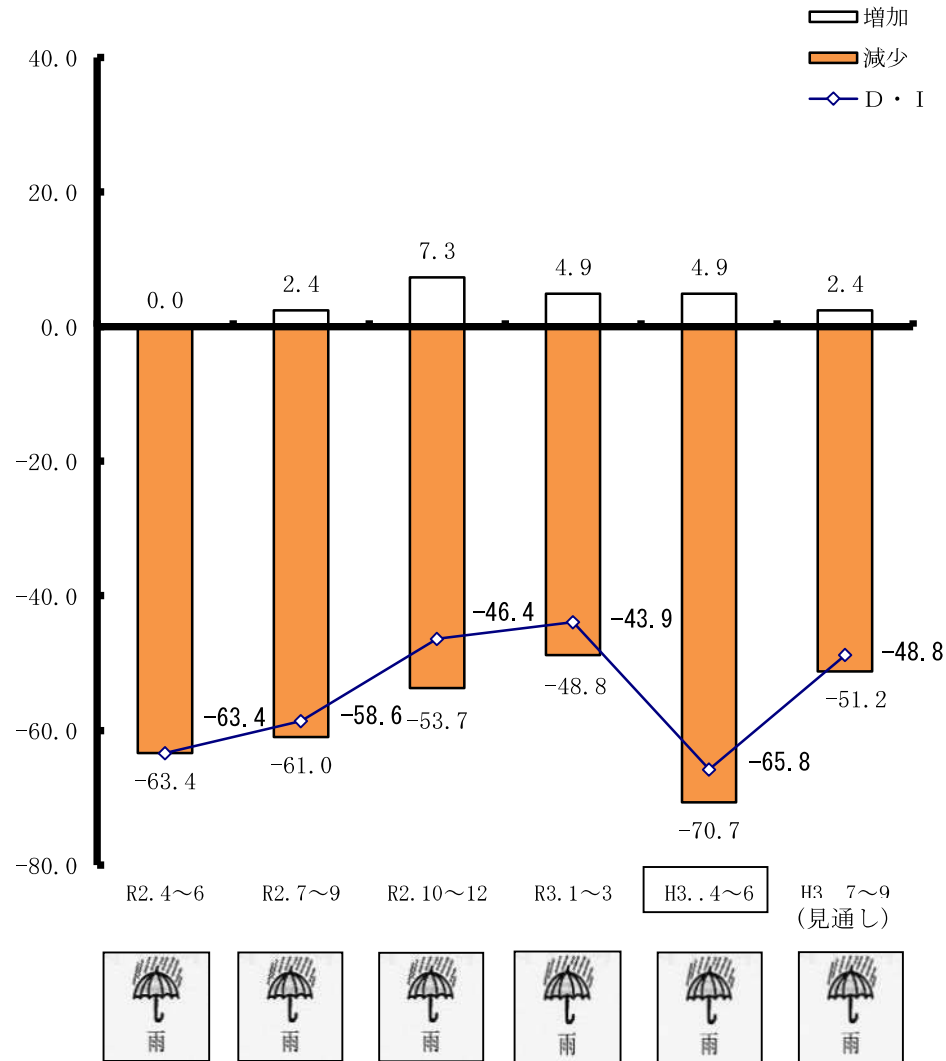


<来期見通し>



今期は、採算が好転した企業の割合が前期と同様低いレベルにとどまった一方で、採算が悪化した企業割合が21.9ポイント増加したため、採算D・Iは21.9ポイントの低下となり△65.8まで悪化しました。

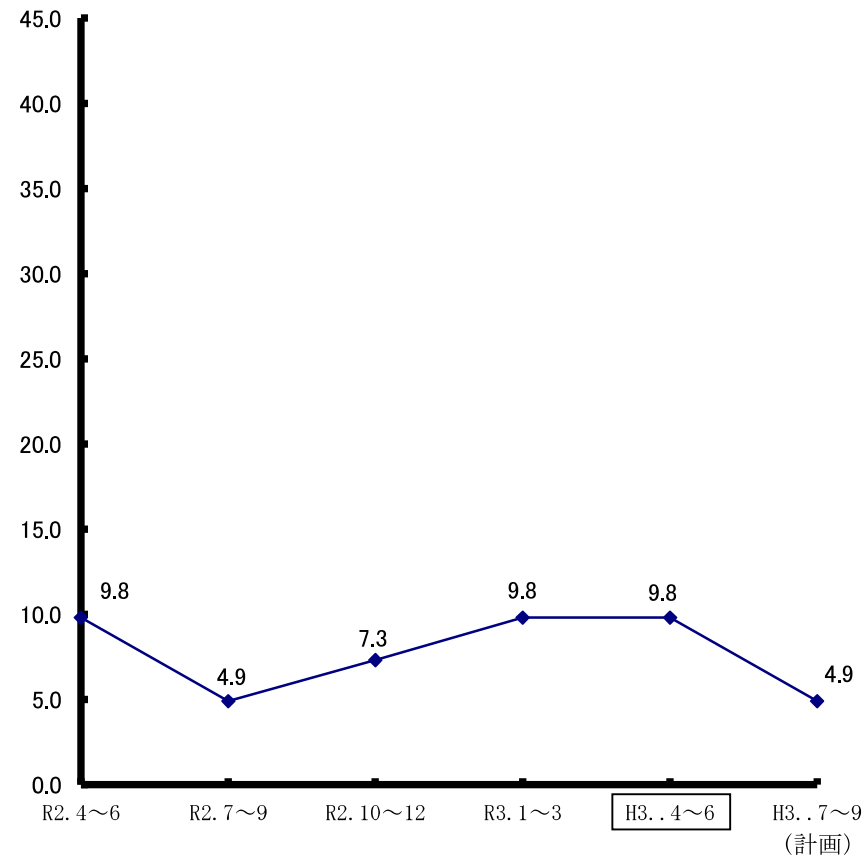
来期は、採算の好転を予想する企業割合は更に減少するものの、採算の悪化を予想する企業割合が減少するため、採算D・Iは上昇に転じ、△48.8までマイナス幅を縮小する見通しです。



## 設備投資

小売業において今期設備投資を実施した企業数の割合は、前期に引き続き9.8の低いレベルにとどまっています。

来期は設備投資を計画している企業数の割合が更に減少し、4.9まで低下する見通しです。



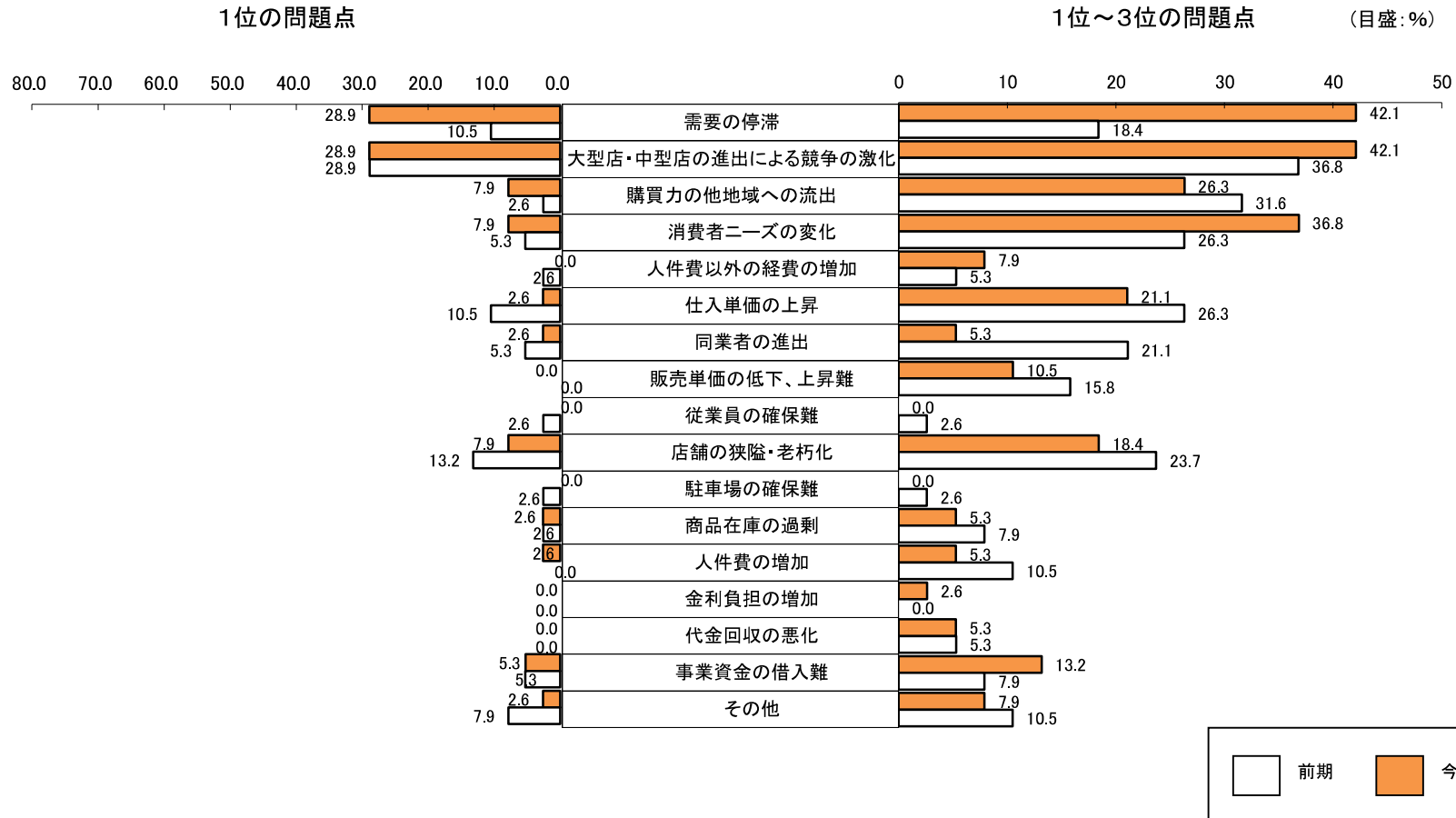
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

# 小売業の推移

## 経営上の問題点

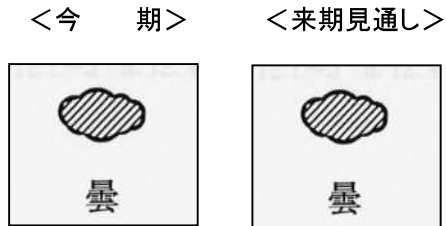
岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



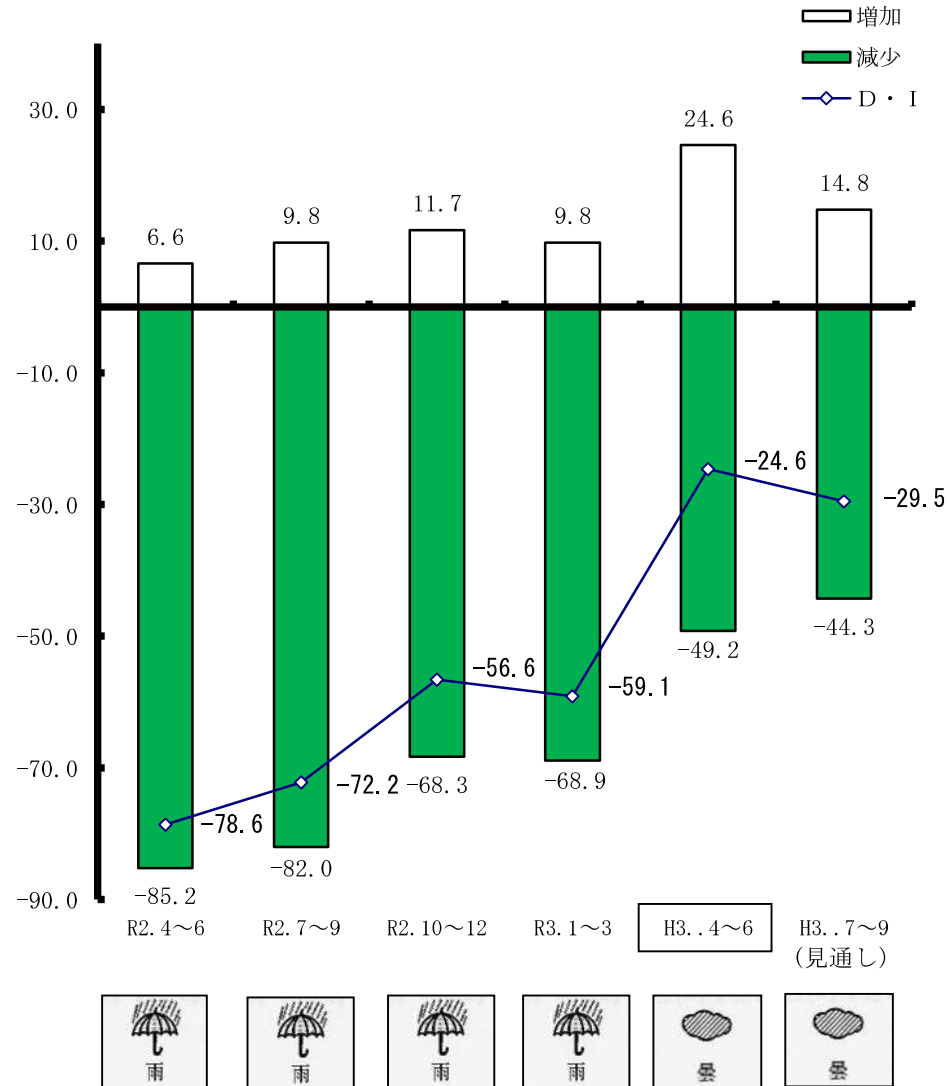
# サービス業の推移

## 売上高



今期は、売上高増加企業の割合が14.8ポイント増加し、また、売上高減少企業の割合が19.7ポイント減少したため、売上高D・Iは大幅にマイナス幅を縮小し、△24.6まで回復しました。

来期は、売上高減少を予想する企業の割合は減少するものの、売上高増加を予想する企業割合が減少に転じることから、売上高D・Iは低下して、△29.5まで悪化する見通しです。



# サービス業の推移

## 採算

<今 期>

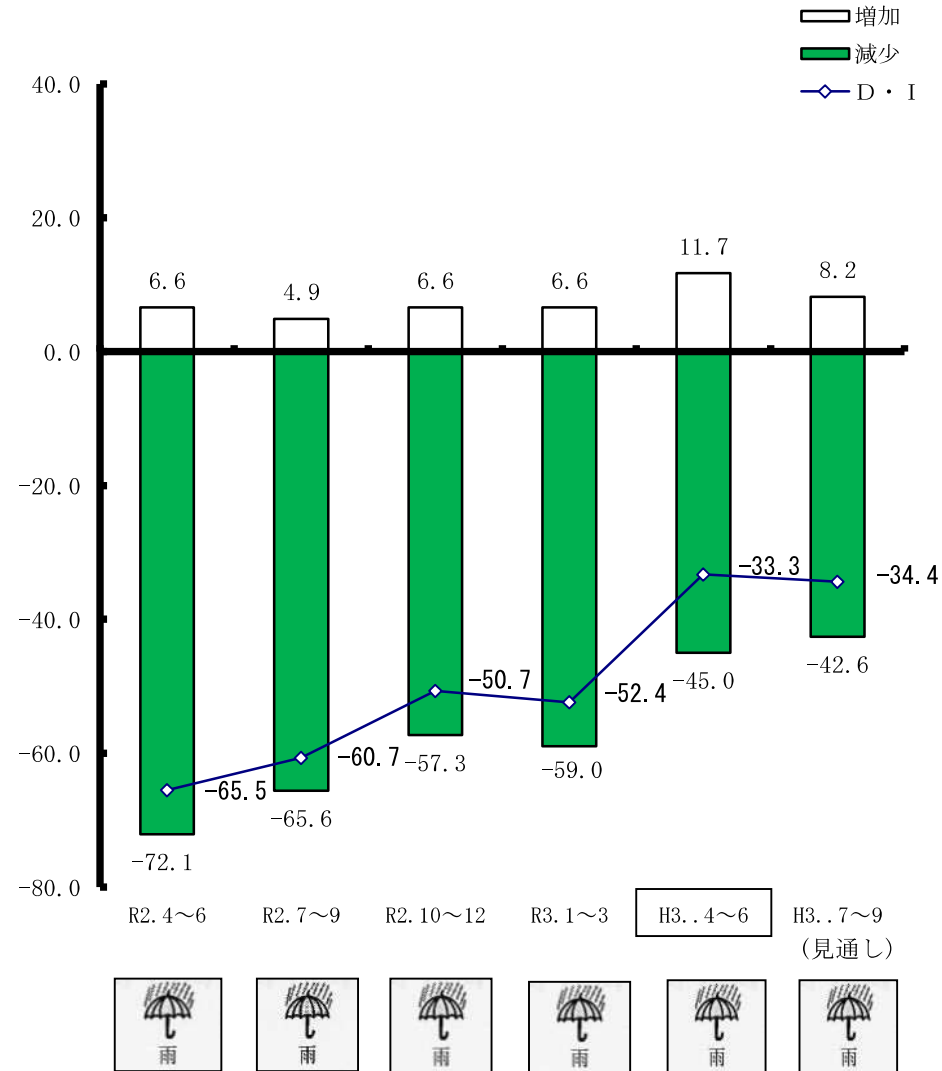


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合は5.1ポイントの増加にとどまったものの、採算が悪化した企業割合が14.0ポイント減少したことから、採算D・Iは19.1ポイント上昇し、△33.3まで改善しました。

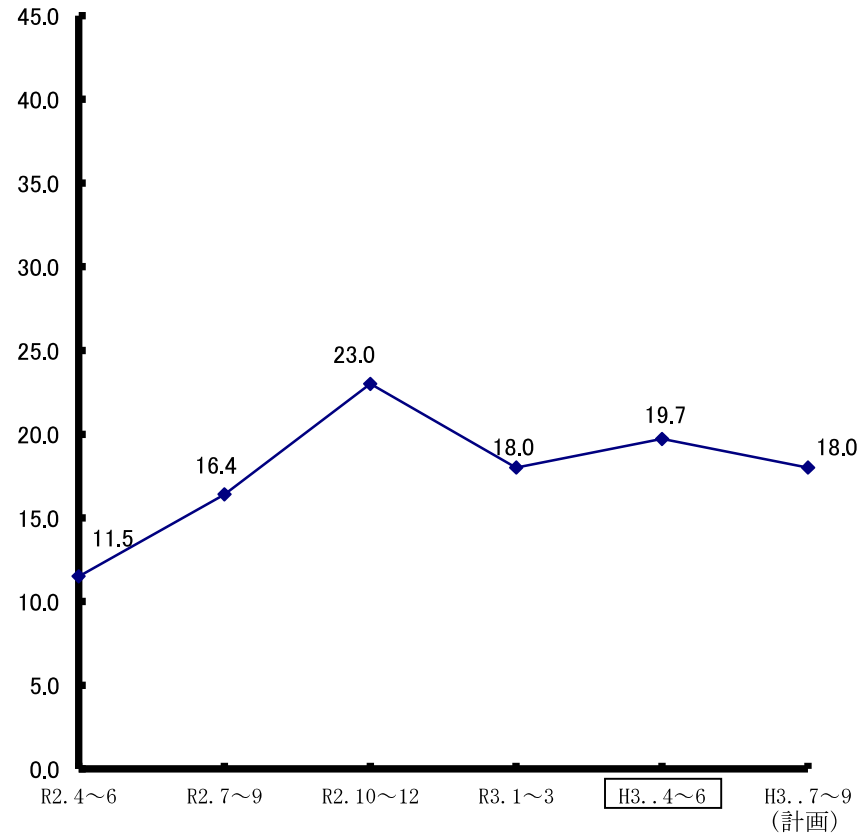
来期は、採算の好転を予想する企業割合が減少し、採算の悪化を予想する企業割合の減少が小幅にとどまることから、採算D・Iは今期に比べて小幅に低下し、△34.4まで悪化する見通しです。



## 設備投資

前期減少に転じていた設備投資を実施した企業数の割合は、再び増加に転じており、19.7となりました。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は再び減少に転じ、18.0まで低下する見通しです。



(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

# サービス業の推移

## 経営上の問題点

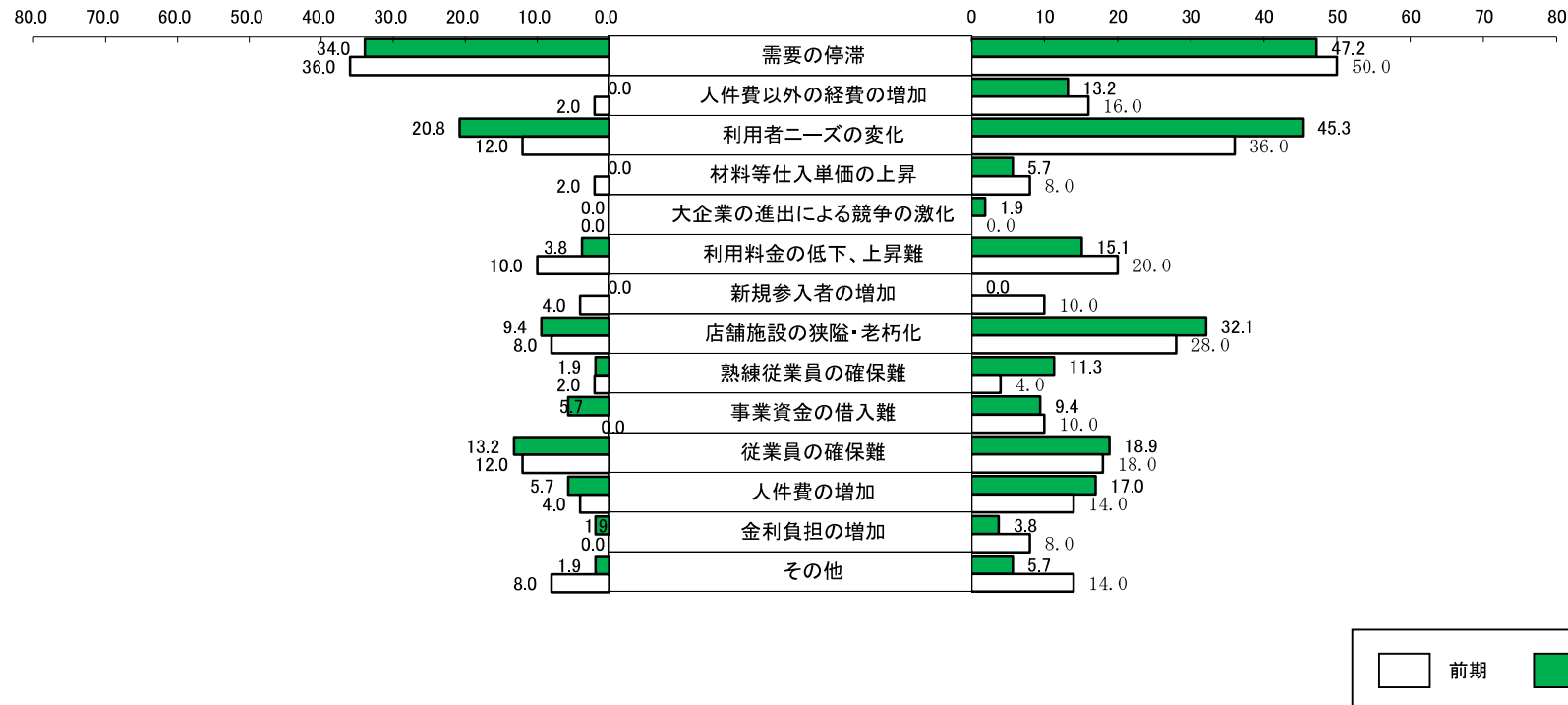
岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

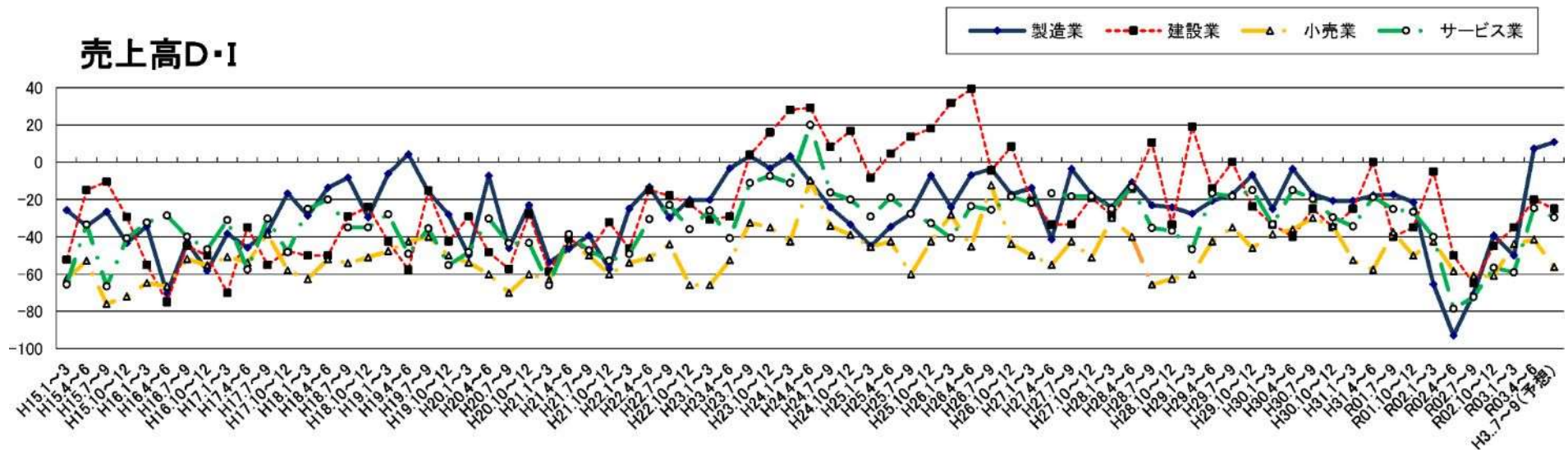
1位の問題点

1位～3位の問題点

(目盛:%)



# 売上高D・I





# 集 計 資 料

# 調 査 要 項

1. 調 査 対 象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 八幡平市、葛巻町、矢巾町、平泉、住田町  
(商工会名) 大槌、岩泉、野田村、洋野町、一戸町
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業
2. 調 査 対 象 期 間 令和3年1月～3月を対象とし、調査時点は令和3年3月1日としました。
3. 調 査 方 法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。  
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

## 4. 対象企業等内訳

業種	項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 ( % )
製造業 (地域産業)		28 ( 18.7 )	28 ( 18.7 )	100.0
建 設 業		20 ( 13.3 )	20 ( 13.3 )	100.0
小 売 業		41 ( 27.3 )	41 ( 27.3 )	100.0
サ ー ビ ス 業		61 ( 40.7 )	61 ( 40.7 )	100.0
		150 ( 100.0 )	150 ( 100.0 )	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものであります。